

エンディングノートのデータ標準a版 の提供について



2021年3月26日
内閣官房情報通信技術（IT）総合戦略室

更新履歴

更新日	更新対象	更新内容
令和3年3月26日	—	a版 公開

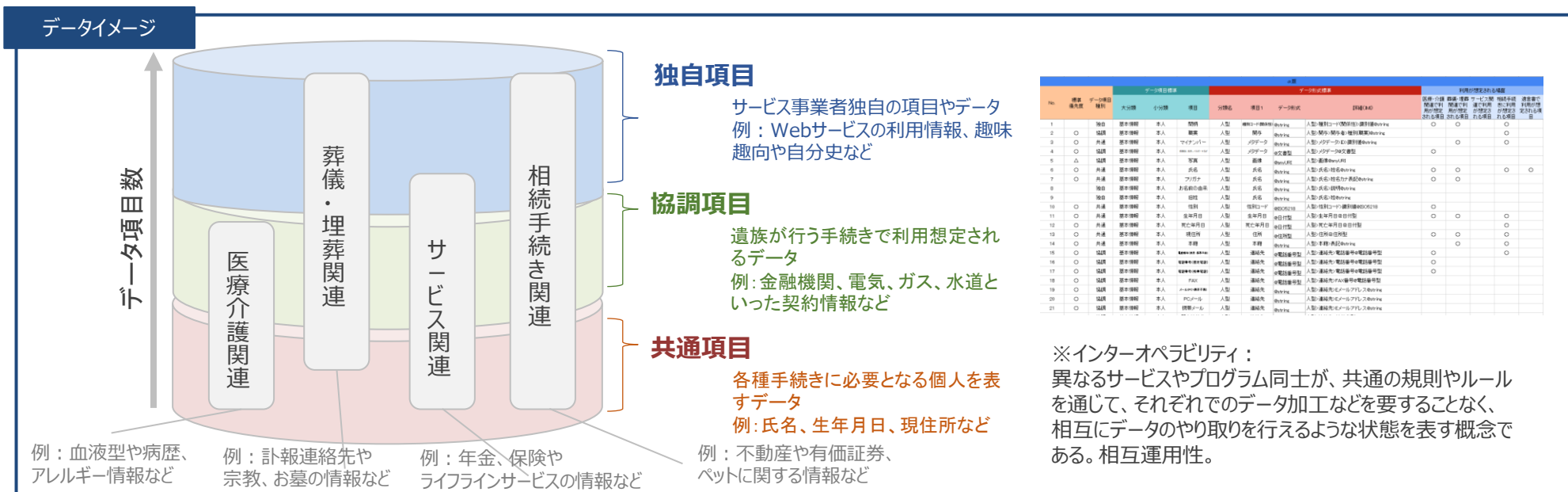
エンディングノートのデータ標準a版の提供について

- 内閣官房は、個人の生前の情報を、死後、遺族に電子的に継承する仕組みとして、エンディングノートデータの標準の作成に令和2年度着手。

【エンディングノートとは】

- ・自分の終末期や死後について、その方針などを書き留めておくノート（三省堂「大辞林 第三版」）。
- ・遺言書と異なり、形式・内容は自由だが、法的な拘束力はない。
- ・エンディングノートがあると、遺族は、死亡・相続手続を円滑に行うことが可能となる。

- 令和元年度末にエンディングノートのサービスを提供している事業者に対して実施した調査をもとに、1,700を超える項目から共通項目、協調項目及び独自項目に整理。
- デジタルで記録するエンディングノートの拡大にあたり、業界におけるインターオペラビリティ※を高め、更なる市場の拡大や競争環境の確保を目的に、データの項目および形式に関する標準a版をCIOポータルへ掲載し提供するもの。



生前にエンディングノートを作成するメリット（「死亡・相続」手続）

被相続人が生前エンディングノートを作成することは、死亡及び相続に伴う手続に必要な情報を集約した資料を残すという点で大きな意味を持つ。このことにより、死後の手続主体となる家族・親族等や行政機関・医療機関・民間企業等の負担を軽減するとともに、被相続人の意思を汲んだ手続を行うことができる。

エンディングノートを作成していない場合

- ・終末期医療や介護の本人意思が不明
- ・保有資産（負債）の把握が難しい
- ・親族関係、交友関係、連絡先が不明



終末期医療・介護の
本人希望がわからない
可能性がある

葬儀・埋葬方法を遺族が判断
しなければならない



相続に関する本人の希望・
理由が不明となる可能性が
ある

保有資産の相続手続や民間
サービスの停止手続を完了
するのに手間や時間がかかる



ステークホルダー

生前

エンディングノート
記入者本人

死亡

親族、医療関係者、
葬儀社、代理人など

相続

遺族、相続人、
銀行、生命保険会社、
証券会社など

エンディングノートを作成している場合



- ・保有資産（負債）・民間サービスなどの整理
- ・財産分配理由の明記（遺言書補完）
- ・家族、親族、友人・知人の連絡先
- ・終末医療や介護の希望

終末期医療・介護について
本人希望がわかる



葬儀・埋葬方法などに
ついて本人希望がわかる



相続に関する本人の希望・理由
がわかるため争いになりにくい

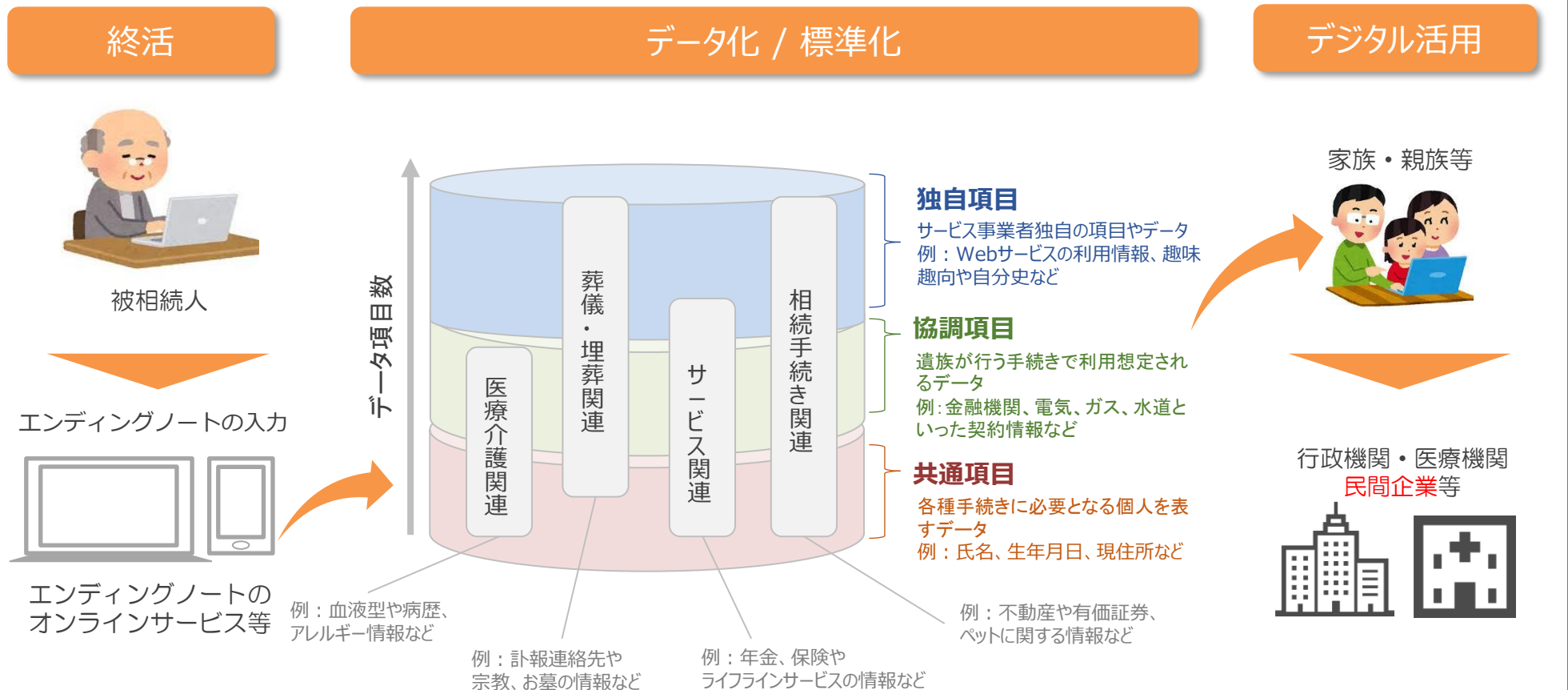


保有資産の相続手続や民間
サービスの停止手続などを
もれなく、円滑にできる
可能性が高い

エンディングノートのデータ標準a版活用イメージ

被相続人が生前にデータ標準に則ったエンディングノートに情報・データを入力することで、被相続人が亡くなった後に、家族・親族等が行政機関・医療機関等の死亡や相続の各種手続などを行う際に、エンディングノートの情報・データを円滑・効率的に活用できるようにすることを目指す。

データ標準a版活用イメージ



エンディングノートのデータ標準α版の見方について

データ標準の見方

■ ソート番号とデータ標準案。

No. : データ項目ごとにユニークになるように付与した番号。
標準優先度 : 標準項目としての優先度高(○)と中(△)を整理した。
データ項目種別 : 共通項目、協調項目、独自項目に分類した。

■ データ形式標準

情報の共有や活用を円滑に行うための基盤であるIMI共通語彙基盤を参照して整理した。データ形式標準案を用いることで、サービスの相互運用性向上を図ることが可能。

データサンプル

α 版														
No.	標準 優先度	データ項目 種別	データ項目標準			データ形式標準				利用が想定される場面				
			大分類	小分類	項目	分類名	項目 1	データ形式	詳細 (IMI)	医療・介護関連で 利用が想定される 項目	葬儀・埋葬関連で 利用が想定される 項目	サービス 関連で利用が想定 される項目	相続手続きに利用 が想定される項目	遺言書で 利用が想定される 項目
1		独自	基本情報	本人	間柄	人型	種別コード(関係性)	@string	人型>種別コード(関係性)>識別値@string	○	○		○	
2	○	協調	基本情報	本人	職業	人型	関与	@string	人型>関与>関与者>種別(職業)@string				○	
3	○	共通	基本情報	本人	マイナンバー	人型	メタデータ	@string	人型>メタデータ>ID>識別値@string		○		○	
4	○	協調	基本情報	本人	保険証、免許、パスポートなど	人型	メタデータ	@文書型	人型>メタデータ@文書型	○				
5	△	協調	基本情報	本人	写真	人型	画像	@anyURI	人型>画像@anyURI					
6	○	共通	基本情報	本人	氏名	人型	氏名	@string	人型>氏名>姓名@string	○	○		○	○
7	○	共通	基本情報	本人	フリガナ	人型	氏名	@string	人型>氏名>姓名カナ表記@string	○	○			
8		独自	基本情報	本人	お名前由来	人型	氏名	@string	人型>氏名>説明@string					

■ データ項目標準

大分類とそれぞれの小分類に対して、項目分けをし、実際のエンディングノートで表示利用される項目を整理した。

■ 4つのデータ利用シーンと遺言書との利用想定

医療・介護関連、葬儀・埋葬関連、サービス関連、相続関連、それぞれのシーンで利用が想定される項目に対し、利用可能性大(○)と利用可能性中(△)を整理した。

今後の活用に関するQA

No.	Question	Answer	日付
1	エンディングノートを今後サービス提供するには、必ずデータ標準α版を遵守しなければならないのでしょうか。	市場の拡大や競争環境の確保を目的としてエンディングノートのデータ標準を提供するものであり、必ずしもデータの項目や形式の遵守を求めるものではありません。一方で、各サービス提供事業者がデータ標準に従ったデータを用いてサービス提供することで、相互運用性が高まり、複数のエンディングノート併用時などの利用者の利便性が向上し、利活用の促進が期待されます。	令和3年 3月26日
2	データ標準α版はどのようにして整理されたのですか。	16種類のエンディングノートを調査対象とし、書籍や冊子、アプリやデータ形式で提供されている項目を抽出しました。その上で、各項目の分類分けを行い、データ形式を定義しました。そのデータをもとに共通項目、協調項目、独自項目となりえる項目をデータ標準α版として整理しています。	令和3年 3月26日
3	今後、データ標準が追加されることはありますか。	あります。今後の調査、要望によってデータ標準の項目の変更や追加、形式の変更、及び優先度の変更は発生し得るものであり、必要に応じた追加・修正を行います。	令和3年 3月26日
4	国が地方公共団体向けに行っている様々な調査や取組みとのデータの整合性は取れていますでしょうか。	今回のα版は、調査対象としたエンディングノートで活用されているデータ項目に基づき整理しています。IMI共通語彙基盤を参照するなど、行政サービスの相互運用性向上の観点からの国・地方公共団体の取組みも一定程度考慮していますが、すべての取組みと完全に一致しているものではありません。今後の本件に係る調査、要望を踏まえ、必要な範囲で他の調査・取組みとの整合性確保を進めます。	令和3年 3月26日
5	個人が生前の情報を承継する仕組みとしては、エンディングノート以外にも遺言等がありますが、何故エンディングノートに着目したのでしょうか。	エンディングノートは遺言と異なり法的効力はありませんが、自分で作成できる、書き直しが容易、相続財産以外のことや生前（医療・介護等）についても記載ができる等々の自由記載性があります。個人の終末期や死後について、その方針などを記載することで、遺族等が死亡・相続手続を円滑に行うことが可能となるツールとして着目しています。	令和3年 3月26日